

「一人暮らし無料体験」が朝日新聞に掲載されました。

関大生協が無料で1週間 部屋提供

一人暮らしお試し

一人暮らしに踏み切れない学生を後押ししようと、関西大学生協同組合（吹田市）が実施している期間限定の無料体験が人気だ。家具がそろった大学近くのワンルームで1週間、料理や家計簿づけを体験するといった内容。多々ある生協の中でも珍しい事業で、今年も募集人員の17倍の応募があった。



①ワンルームのキッチンで料理する土井美沙季さん②帰宅早々、大学の課題に取り組む寺前奈々さん
いずれも吹田市山手町3丁目

無料体験は2年前にスタートした。部屋探しが落ち着く秋ごろに期間を設け、関大生を対象に毎年4人を募集し、書類選考で参加者が決まる。今年は11月の実施で約70人が応募した。体験に使う部屋は、関大生協のグループ会社が管理する物件。体験のため家財道具一式がそろっており、家賃はもちろん



不安解消 後押し

光熱水費もかからない。ただ、学生には「期間中、作った料理の写真を2回以上メール送信」「家計簿をつけて提出」「感じたことを毎日報告」といったノルマが課せられる。受け取った情報は後日、学生の保護者に郵送される。

関大生協の担当者、岡本朋宏さん(34)は「無料体験は一人暮らしが本当にできるのか、実際に試して見極めてもらうためのもの。学生サポートの一環です」と話す。

同生協の調べでは、関大生の下宿率は2011年の19・3%から、13年には16・6%になるなど減少傾向。景気の影響で親の財布のひもが固くなったことなどが原因のようだ。ただ、長い通学時間を勉強や部活に回せ、生活力を高められるのも一人暮らしのメリット。体験が家族で話し合っつけかけになってもらえれば、との思いも込められている。

今年参加した社会学部2年の土井美沙季さん(20)は「一人暮らしがちゃんとできるということを、不安がる親に見せ、説得材料にできた」と話す。自宅は富田林市。通学には片道2時間

料理・家計簿・日記 ノルマ

かかっている。夕方からアルバイトをすると、日付をまたぐころに帰宅。「寝る時間が短くてしんどい」のが悩みだ。ハードルになっているのが家族の同意。土井さんは期間中、掃除を欠かさず、肉詰めピーマンやチャーハンなど食事も作れた。「私の自信にもなった。今後親と改めて相談してみます」

一人暮らしの大変さが身に染みた、という学生もいる。約1時間、門真市の実家から通っている政策創造学部2年の寺前奈々さん(19)。九州や関東から入学した同級生が何でも家事をこなすのを見て、「早く自分も自立しなくては」と焦りを感じていた。体験中、好きな料理をする機会が増えたのはうれしかった。が、アルバイトで遅く帰った時でも、料理も洗濯も一人できなかなければならない厳しさも味わった。「一人暮らしは、まだ先でもいいかなと、多少思うようになりました」

同生協によると、昨年までに無料体験を利用した計8人のうち、実際一人暮らしを始めたのは2人。生協は今後も無料体験を続けていく予定だ。

(采沢嘉高)